

授業科目名	野外活動演習	単位数	2単位
担当教員名	永翁一代	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
「学位授与の方針」との関係			
DP2. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現、等の専門的知見を得ることができる（専門知） DP4. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけ実践することができる（実践力）			
授業のテーマ及び到達目標			
【授業のテーマ】 野外活動・フィールド調査			
【到達目標】 野外活動・フィールド調査の目的、意義を理解するとともに、水質、大気汚染物質の測定により、地球環境における元素循環について理解を深め、人間活動の自然環境へ及ぼす影響について考察することを目的とする。			
授業の概要			
野外活動・フィールド調査の目的、意義、計画、注意点について理解する。指標生物、生物相の調査や相観植生図による地域全体の調査の方法について学修し、市民による里地里山のモニタリング調査の実践例を概観する。スクーリングにおいて、水環境、大気環境の調査を行う。水質、大気汚染物質の測定により、地球環境における元素循環について理解を深めるとともに、人間活動の自然環境へ及ぼす影響について考察する。			
授業計画			
第1回：野外活動・フィールド調査 目的 第2回：野外活動・フィールド調査 意義 第3回：野外活動・フィールド調査 計画 第4回：野外活動・フィールド調査 注意点 第5回：指標生物の調査 第6回：生物相の調査 第7回：地域全体の調査～相観植生図 第8回：水環境の調査～水質測定 第9回：地球環境における元素循環 第10回：大気環境調査～二酸化窒素の測定 第11回：測定データのまとめ方 第12回：公開情報の利用 第13回：大気環境汚染物質-1 第14回：大気環境汚染物質-2 第15回：市民による里地里山のモニタリング調査 科目修得試験			
スクーリングでの学修			
水環境、大気環境の調査を行う。水質（硝酸濃度など）、大気汚染物質（二酸化窒素濃度）の測定により、地球環境における元素循環について理解を深める。同時に、人間活動の自然環境へ及ぼす影響について考察する。			
テキスト			
財団法人 日本自然保護協会（2006）『自然環境モニタリング調査の手引き1入門編 身近な自然を見つめる目』日本自然保護協会資料集 第45号			
参考書・参考資料等			
モニタリングサイト 1000 里地調査 調査の手引き 公益法人日本自然保護協会 2023年5月 https://www.nacsj.or.jp/official/wp-content/uploads/2017/06/moni1000tebiki2023_rev2.pdf			
福田真由子・藤田 卓・小林 彩・高川晋一（2022）特集「緑化学にとっての市民，市民にとっての緑化学」市民による里地里山のモニタリング調査の意義とその成果. 日緑工誌, 47（4）, 443—446, https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjsrt/47/4/47_443/_pdf			
学生に対する評価			
スクーリング評価（50％）、科目修得試験（50％）			